



投資INSIDE-OUT

2024年2月22日

<投資の裏側>

Vol. 281

日経平均株価が過去最高値を更新！

～語られざる投資の真実(83)～

◆米エヌビディア好決算を受けて半導体関連株が急騰、高値更新の「けん引役」に

22日の日経平均株価は39,098.68円(前日比+836.52円)で引け、1989年末に付けた過去最高値(38,915.87円)を更新しました。日経平均株価は前日のNYダウ(38,612ドル)の値も上回り、約8年ぶりの日米逆転となっています。こう聞くと、「昨年来の日本株の高騰はバブルなんじゃないの?」と早合点する人もいそうです。「バブル」の定義次第ですが、足元の日経平均株価は、割安・割高を測るPER(株価収益率)が16倍台、PBR(株価純資産倍率)が1.4倍台であり、**1989年末時点(PER:62倍、PBR:5.6倍)の「持続が不可能なような」高水準ではなく、「バブル」にはほど遠いと思われます。**

また、日経平均株価はNYダウ同様、組み入れ銘柄の株価を単純平均して算出されるため、一部の株価水準の高い銘柄(値がさ株)の影響を受けやすい特徴があります。コロナ禍以降(2019年末～2024年2月21日)の騰落率は、日経平均株価が+61.7%とNYダウの+35.3%を大きく上回っています。一方、時価総額(発行済株式数×株価)を基準に算出されるTOPIXと米S&P500指数を比べると、各々+52.6%、+54.2%と拮抗しています。日本の株式市場の実態をよりの確に反映するとされるTOPIXは依然として、過去最高値を8%程度、下回った水準にあります。



◆半導体株指数化しつつある日経平均株価

上記のバリュエーション指標からはバブルに当たらないとは言え、日経平均株価の上昇ピッチに「短期的な過熱感」があることは否めません。特に昨年来の上昇は、値がさの半導体関連株が大きく寄与しています。日経平均株価225銘柄のうち、「半導体・半導体製造装置」に分類される、東京エレクトロン、アドバンテスト、レーザーテック、SCREENホールディングス、SUMCO、ルネサスエレクトロニクスの6銘柄で、全体のウェイトの16%強を占めています。このほか、英半導体設計大手アームを傘下に持つソフトバンクグループや半導体シリコンのシェアで世界1位の信越化学などを含めると、半導体関連のウェイトは実質的に20%台前半まで高まっている状況です。

日経平均株価の推移



ハイテク株バブルだとか、AIブームだとか、警鐘を鳴らす向きも多々あります。

しかし本当に注意が必要となるのは、「誰もが」株高やAI成長が続くと言いだした時かもしれません。(超乾)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。